

学校教育目標	【生きるよこび 学ぶ楽しさ のびのび 飯島っ子】 知: 自ら課題を見つけ、追究し続ける子 徳: 一人ひとりがかけがえのない存在であることを認め、共に学び合える子 体: 命を大切に、健やかな心と体をつくる子 公・開: 学校や地域の一員であることを自覚し、すすんで行動する子				
	学校概要	創立 55 周年	学校長 河原 洋之	副校長 細矢 千穂	3 学期制 一般学級: 17 個別支援学級: 6
児童生徒数: 492 人		主な関係校: 飯島中学校 千秀小学校 (豊田小学校)			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	飯島中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
☆自ら課題を見つけ、追究し続ける力【自分づくり】 ☆自他の良さや違いを認め合い、共に学び合う力【仲間づくり】 ☆持続可能な地域・社会の創造に貢献する力【まちづくり】	飯島中学校 千秀小学校 飯島小学校	自分を認め、社会とつながり行動できる子 ○コロナ禍で停滞しているブロック間の交流や活動を活性化し、9年間の連続性を意識したそれぞれの教育活動を構築する。 ○小中ブロックで活動する様々な場面で目指す子ども像を確認し、それぞれの発達段階に応じた意図的な経験や成長の機会を増やす。

中期取組目標	【地域と共に持続可能な教育システムをつくる(人や地域とつながり、未来へつなげる、夢あふれる学校づくり)】 ○特別支援教育・人権教育: 一人ひとりの良さや可能性をみとり、多様性を尊重することで、子ども自身が、生活や学習に見通しと目的意識をもてるようにする。 ○教育課程・学習指導: 基礎・基本の定着を図り、学んだことが「生きる力」につながるよう思考力・判断力・表現力を高めていく。 ○地域連携: 地域とつながる体験的な学びを通して、子どもが主体的・探究的・協働的に活動できるようにする。
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野		具体的取組
知	生きてはたらく知	①日々の学習の中でグループ学習を取り入れ、対話的で協働的な学び合いが実現できるようにする。 ②生活科や総合的な学習の時間などから、地域の財を生かした取り組みを盛り込み、地域人材と交流できる活動を計画する。
担当	黒澤	
徳	豊かな心	①全ての教育活動において互いの良さを認め合い、違いを尊重しながら問題を解決したり、新しいものを創造したりする体験をつみ重ねる。(児童が主体となり地域や中学校と連携したあいさつ運動の推進)(子ども会議によるいじめ防止の全体化)(異学年交流の推進) ②YPアセスメントを複数回実施し、各学級の実態把握をするとともに、学年で共有する時間をとり、より多くの目で児童理解を進める。(飯島スタンダードの活用、ユニバーサルデザインを取り入れた教育環境づくり、チーム学年経営)
担当	手塚・長瀬	
体	健やかな体	①基本的な生活習慣の定着について家庭との連携を強化する。(気になる児童については面談を利用して伝える) ②生活科や総合で地産地消やフードロスについて学習する時間を確保する。「ばくばくだより」を利用して日々、給食での食育を推進していく。 ③体育の運動量の確保や休み時間の外遊びの推奨をしていく。
担当	小松・林・浦川	
公開	公共心・社会参画 未来を開く志	①地域交流室(チームひまわり)を中心に教職員や児童(里山委員会)、PTA、学校利用団体等が連携・協力し、学校里山の環境整備を行う。 ②団地祭、どんど焼き、柏尾川で親しむ会等の行事共催を通じ、学校と地域が協働し「共に地域を創り上げる子」の具現化を図る。 ③飯島小中学校運営協議会の機能化を図り、異校種連携・地域連携を強めることで「持続可能な地域社会の実現」をめざす。
担当	田中	
いじめへの対応		①学年や成長に応じた特別支援の授業を、1年生～6年生までの授業の力を作成し、自尊感情や有用感(自立的・社会的)を高められるような指導をしていく。 ②豊田地区や飯島中ブロック、保護者等との連携を図り、「あいさつ運動」や「子ども会議」等を促進する。 ③携帯・スマートフォン、タブレットの安全安心な使い方やネットいじめに関する出前授業を実施し、いじめ防止の啓発資料等を保護者に配布し未然防止に努める。
担当	黒澤・長瀬・手塚	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①児童支援専任を中心にブロックリーダーを3名を指名し、子ども理解のための児童支援体制を図る。年度初めにブロックリーダーの在り方を明確化する。 ②「チーム学年経営」を目指し、教科担任制による学年間の情報共有や教材研究を充実させ、チーム力のアップを図る。 ③特別教育支援員、読み聞かせ、図書整備ボランティア、外部講師、地域人材や施設等を積極的に活用し、子どもが安心して生活できる地域連携体制を強める。
担当	田中・長瀬	
特別支援教育		①インクルーシブの視点に立って一般級や個別級の連携強化を図る。(個別級理解授業の実施等) ②母語支援ボランティアを活用して言葉の壁をなくす等、児童が安心して学習に取り組めるようにする。 ③全ての児童が落ち着いて学習に取り組めるように、更なるユニバーサルデザインを意識した教材研究や環境整備に取り組む。
担当	山下・黒澤	
教育課程・学習指導		①豊かな体験を重視した、飯島らしい学び、地域とのかかわりを大切にしたい学びを充実させる。(地域行事との関連) ②学習スタンダードの子どもが落ち着いて学習できる学習環境・職場環境を整える。 ③子どもにとって「分かる」「楽しい」授業を展開し、学びの自己有用感を高められるようにする。
担当	黒澤・安島	
a14		b9
担当		
a15		b10
担当		